

当時の思い出

沼田 将成 (平成11年度卒業生)

寄稿の依頼があり、中学生時代を思い返すと卒業から18年、時の流れの速さを感じます。などと言ってしまうあたりが自分もおじさんになったのだなと感じます。(笑)

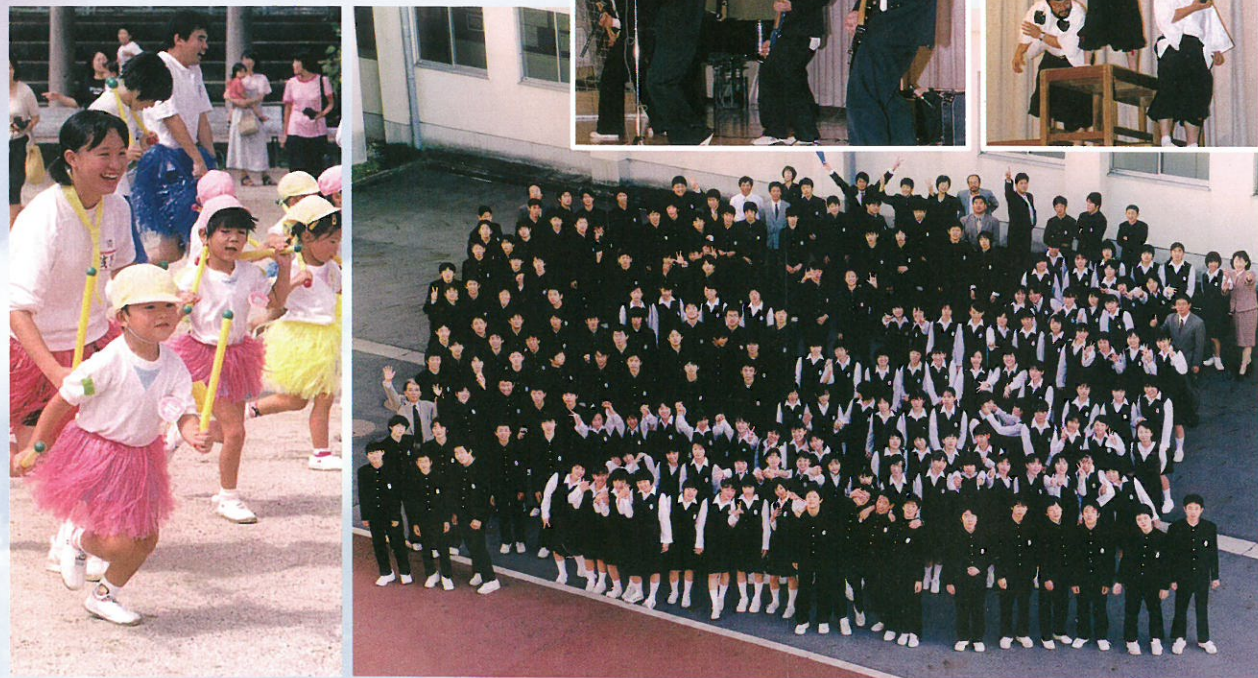
当時の思い出としては、部活・体育祭・合唱コンクールなどいろいろありますが、何でも勢いだけで挑戦することが多かったなあと思います。うまくいったこともうまくいかなかったこともありましたが、幸運な事にそういった挑戦を支えてくれる仲間と周りの大人のサポートがありました。成功にしろ失敗にしろ、挑戦は次の挑戦への勇気になるものです。そういった積み重ねが今の自分の価値観を決めていると、大人になった今、感じており、当時の経験は貴重なものだったのだと思っています。

また中学生時代の仲間とは今でも付き合いがあり、こちらも一生ものの財産ですね。

恩師のたより

那加中ーそして創造へー 所 秀敏 (平成11年度3年学年主任)

一番に思い出されるのが、長谷川校長先生の事です。職員会前に行事などの提案文書を校長室に持っていくと、第一声が「去年と違うところは？」でした。今までのまを極端に嫌い、私たちに新しいことの創造を要求されました。緊張感のある毎日でした。しかし、新しいことへの挑戦に対しては、全力でバックアップをしてくださいました。だから、職員全体が、今までにないものを生み出そうとする活気にあふれていました。職員のこの活気が生徒にも浸透し、新しい取り組みがどんどん広がりました。瀬戸内海の白石島でのマリンスポーツを楽しんだ修学旅行。3年生が幼稚園児と校長先生といっしょに踊った体育祭。生徒のバンド演奏にダンスと、校長先生も登場した職員劇の3年生を送る会。アルバムを開いて、生徒や職員のすばらしい笑顔を見ると、その当時の職員と生徒との一体感を強く感じます。こんなにすばらしい那加中に勤めていたことを誇りに思います。



中学時代を振り返り

佐々木 陽介 (平成12年度卒業生)

世の中の流れに左右されることなく、ただただ元気に好きな事に打ち込み、勉強に部活にと自由奔放な毎日を送っていた中学時代を70周年誌寄稿に際し少し振り返ってみました。

最も印象的であったのはやはり3年生の1年間でした。尊敬する恩師の方々、素晴らしい仲間恵まれていた私は生徒会長を拝命し、体育祭や修学旅行などの行事のみならず日常生活に対し、実に生き生きとした日々を送っておりました。卒業を3月に控えた年明け以降は、誰が言い出したわけでもありませんが3年間の感謝の気持ちを込め、毎朝数名の有志たちと共にクラス中の机拭きを行った記憶が今でも鮮明に思い出されました。

あの3年間、那加中学校で見たり聞いたり、学んだ事や経験した様々な事は、すべて今日の私の礎であり今後も人生における糧となっていくことでしょう。

恩師のたより

STAY GOLD ~あの頃の輝きを忘れない~

佐藤 之泰 (平成12年度3年学年主任)

「Golden Time」藤井校長先生、長谷川校長先生が在職され、私も勤めさせていただいたこの期間を、私はそう思っています。「何をやっても、中学校が倒れることはない」「やらないで後悔するより、失敗して考えよ」そうした両校長先生の導きにより、どんなことも生徒を中心にすえて、よりよい中学校生活をめざして活動を考えました。

6日間の職場体験、雪山スキー研修、2日連泊の白石島研修。体育祭では卒業記念品としてTシャツを先取りしてPTAよりいただき、色とりどりのTシャツで競技もしました。また、学級独自でダンスをしたり、学年や、有志を募ってダンスを企画したのもこの頃の体育祭でした。学校全体に熱がこもり、一つの事に向かって全力で取り組む姿が素晴らしかったです。そして生徒会・PTAと一緒にバザーを企画したり、12月の生徒集会では、生徒の自主的参加の音楽発表や、職員による劇を発表したのも忘れられません。

生徒と教師とPTAと一つになって色々なことに挑戦し続けた期間でした。あの熱気・勢い・明るさ、全てが今も心に残っています。輝いていたあの那加中。STAY GOLD

